

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495500480		
法人名	コスモスケア株式会社		
事業所名	グループホームコスモス八乙女 すみれユニット		
所在地	宮城県仙台市泉区八乙女中央3丁目9-23		
自己評価作成日	令和3年11月26日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	2022年1月21日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ユニットの理念 1、感謝するところ 2、お一人お一人に寄り添う心 3、支え合えるチーム創りを掲げています。  
コミュニケーションに消極的な入居者様も、話しかければ会話に花が咲きます。お邪魔にならない配慮はしながらも、職員から積極的に声をかけ、日々活き活きとした生活が送れるように心がけています。食事作りに力を入れ、入居者様の趣向を聞き出しながらのメニュー作りも行なっています。味はもちろん見た目にも楽しい行事食を作るなどの演出が好評です。  
コロナ禍で感染状況も見ながらではありますが、制限付きで居室面会を再開しています。外出も制限付きではありますが、限られた近隣のお店にはお連れできるようになりました。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地下鉄八乙女駅近くの住宅街にある2階建てのホームで、法人本部が隣接している。法人理念の基、たんぽぽユニット:「思いやりの心」「チームの一体化」「皆が笑顔で過ごせる場所」など、ユニット毎に3項目の理念を作成し、ケアプラン作成に活かしている。毎年年度末には振り返りを行っている。また、ケアプランは利用者の尊厳の保持と自立支援を念頭に作成している。運営推進会議は資料を配布し、オンライン会議も併用している。資料配布した委員からは意見や要望・アンケートシートを用意し記入してもらうなど、コロナ禍の中でも情報・意見交換を図り、サービスの質の向上に向け取り組んでいる。週休3日制の導入を検討し、職員が仕事しやすい環境作りを目指している。食事委員会があり、職員が利用者の嗜好を反映し、食事が楽しめるよう彩りに配慮し献立を作成している。法人の管理栄養士から助言を受けている。常勤看護師(兼務)が配置されており、利用者の健康管理を行い医療連携が図られている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果（事業所名 グループホームコスモス八乙女 ）「ユニット名 すみれ 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	実践状況は100%ではないが、共有し、実践に繋げている。	法人運営理念の基、年度末に職員で話し合いユニット毎に理念を決めケアに活かしている。事務所内に掲示し、毎朝ミーティング時に唱和している。ユニット理念の「チーム」ケアを推進するために新人職員からの意見も聴き、チームワークを大切に支援を意識している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で、一部近隣と可能な範囲で繋がりを続けている。	例年開催している地域サロンへの参加やボランティアとの交流はコロナ禍でできていないが、町内会の花壇造りで球根植え等を手伝った。次年度も継続して花壇の一角の手入れを手伝う予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍で、実践はできていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で参加率は低いが、ZOOMや別棟を活用して可能な範囲で実施している。	メンバーは地区社協役員、町内会長、地域包括職員、家族で構成されている。資料配布を行いホームの様子を報告し、オンライン会議も活用し実施している。メンバーから意見・要望を聴き取ったり、資料配布者からも意見・要望をアンケート用紙に記入してもらい助言を得ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	相談があった際、連携している。運営推進会議において実施している。	市・区へは必要時に電話等で運営基準などの不明点を問い合わせたり、相談、事故報告等を行い、情報共有を通して運営支援を受けている。外部評価の報告を県と市へ行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	グレーゾーンについて3月に一回以上の検討会を実施しており、研修も年に2回実施している。	3ヶ月毎に身体拘束廃止委員会を開催している。管理者やリーダーは、職員の何気ない言葉遣いが、「人権と尊厳を意識したケアになっているか」の視点から不適切なケースやグレーゾーンにも留意して、職員に助言したり振返りを行っている。安全対策として家族の了承を得て離床センサーを使用している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修の機会を設けるとともに、日々のミーティングでも気になる点があれば議題に出せる関係性がある。	内・外部研修へ参加している。法的な知識に裏付けられたサービスが行えるように目指している。言葉遣いやケアに関する疑問点、不安なことは、管理者やリーダーへいつでも相談できる環境作りに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	十分な研修は実施できておらず、理解度は低い。 職員が外部研修に参加しているが、伝達研修までできていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	行なっている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しているが活用されることはなかった。面会、電話、届け物、担当者会議等で随時施設から確認し、反映に努めている。	家族からの要望は、介護計画作成担当職員との定期面談時や、通院の付き添い時など様々な場面で聞いている。洗濯物の管理について要望等があり、職員で検討し改善に繋がった。意見箱も利用しやすい場所に設置するなど、配慮し取組んでいる。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティングや定例会議、定期面談や随時の面談で機会を設け、反映に努めている。	職員との個別面談や職員会議時に要望や意見を聞いている。宮城県が実施している週休3日制のモデル事業を導入するにあたり、職員から意見や希望を聴き、選択制で実施している。物品購入についてや利用者の安全に配慮したりビング・食堂の配置換えなど、出された意見を反映し行った。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度があり、毎年整備がされている。定期と随時の面談の実施がある。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に毎月2～3名程度参加している。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	社内での同等の等級での研修会の際には、交流もできている。	職員は法人全体の階層別研修や、各委員会の研修に参加しケアに活かしている。業種、年齢なども異なる職員と意見交換や情報交流を通じて自己研鑽に繋げている。これらの交流は自己の振り返りの機会にもなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用開始時は特に関わりの時間を多く持って関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様のご意見を大切にし、可能な範囲で要望に応じ、関係作りに務めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	望むことを引き出す技術、説明、必要とされる関わりに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する側の立ち位置になりがちであり、互いに注意し合う関係性を大切にしている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	話を一方的に聞くのではなく、適切な情報の伝達やアドバイスもしながら関係づくりに努めている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で、その時々に対応に努めている。面会禁止時でも、WEB面会を推奨し、希望するご家族に提供してきた。	オンラインを活用し家族と面会を行ったり、絵手紙や電話で交流を支援し、コロナ禍でも関係が途切れないよう支援している。墓参りや愛犬を看取るため自宅へ戻る外出支援など、可能な限り要望に応じている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立している方はおらず、できるだけ9名様での動きを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も施設を訪問して下さる家族様をいっしょに、会話の中で近況の確認などもさせて頂いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症があっても、その言動からの把握に努め、常に職員間で話し合いを持ちながら検討している。	入居時に利用者や家族から意向や生活歴等を聞き、情報シートに記入し集約している。意向を表すのが難しい利用者からは、自ら選択できるように質問する等、声のかけ方を工夫している。日常生活の中で見せる利用者の表情や様子からも思いを把握している。得た情報は職員間で共有し、対応について検討しケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前だけではなく、入所後にも随時で情報を確認させて頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のミーティングをとおして、日々の情報共有に努めている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	コロナ禍で集まって話すのは難しいが、日々のミーティングやカンファレンスを通して職員間でプランを共有している。	全利用者の状態を毎月の会議で情報共有しケア方法についてなど検討を行い、介護計画を評価している。利用者を主体として考え、管理者・看護師・介護職で連携し、多方面から利用者の自立が促せるよう意識し、介護計画作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報共有を意識した記録に加え、話し合いの時間を設けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	実施はないが、同法人他事業所の理学療法士の活用や、マッサージ事業所の活用も視野に入れて日々検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問理美容の活用や、本人の希望を取り入れた食品の購入等しながら支援している。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科、歯科の訪問診療の希望を伺い、希望者を仲介している。	利用者が希望するかかりつけ医を受診している。利用者の状態により往診医をかかりつけ医に提案することもある。通院は基本的に家族付き添いとしており、受診時には看護師が作成した健康状態をまとめた文書を、家族に提供し、医療機関へ利用者の状況を伝えている。状況によっては職員が同行することもある。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々相談事項が共有され、適切な介護と看護の連携に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時には紙面も活用して情報共有に努めている。退院時はカンファレンスの開催を依頼している。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りケアの前段階では、担当者会議を開催し、状態の共有と家族意向の確認を行っている。本人意向についても共有している。	入居時に「看取りに関する指針」を説明している。本人、家族の意思確認は段階を踏んで行い、看取り期は、家族、医師と相談して介護計画を作成し同意を得てケアに努めている。看取り期は経験のある職員が中心となり、事前ミーティングや緊急カンファレンスを開催し情報共有や検討等を行いチームで連携し取り組んでいる。常勤看護師が配置されており、看取り実績もある。医師の指示で家族が訪問看護事業所と契約することもある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練とまではいかないが、想定できる事故や体調不良への対応については、都度指示がでて備えている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練はしているが、非常災害時はその時の緊張感のなかでしっかりとできるか、不安はある。災害時の近隣との協力体制は十分ではない。	年2回、火災訓練を実施している。地震・水害の通報連絡訓練を行い、通報や機器の取り扱いを周知している。非常食・備品等は管理者が管理している。感染症対策ではチェック表・プラスチック手袋、消毒液等を準備し、研修も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	場面によっては不十分になってしまうこともあり、チームでの振り返りを大切にしている。	部屋に入る際は、ノックや声掛けで確認してから入室している。排泄介助時等にも、利用者の尊厳を守り、羞恥心、嫌な思いをしないよう言葉遣いにも配慮し支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人の意思決定を大切にしたコミュニケーションに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別のサービスや対応を取り入れながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服の選択を尊重している。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ADL低下に伴いできないことが増えても、できる範囲で共に行なっている。	食事委員会を設置し、担当職員が法人の管理栄養士に相談や助言を得て献立を作成している。利用者の嗜好を考慮し、視覚からも食事が楽しめるような献立作りを行い、嫌いなメニューは代替え食で提供している。行事食は、利用者を中心に主体的に参加し楽しめるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医療や看護師と相談をしながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ほぼ行なっていて、介助しているが、見逃してしまうこともある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	状態に応じて自立支援も取り入れながら支援している。	職員は排泄チェック表や申し送りシートで排泄状態を把握している。介護計画において利用者自身で行えることを尊重して、排泄の自立を支援している。便秘予防には腹部を温めたり、水分摂取量の確認など、一人ひとりに合わせ取組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や寒天等を取り入れ、Drにも相談しながら支援している。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的な入浴パターンはあるが、その時の気分に応じた対応も行っている。	基本3日ごと、10時から16時までに入浴支援を行い、その他にも希望があれば、可能な限り対応できるよう努めている。脱衣所や浴室の保温に配慮し、行事湯や入り口には温泉マークを用意するなど、気分良く楽しい入浴ができるよう工夫している。利用者は、職員との対話も楽しみにしながら入浴している。体調に合わせて、部分浴や清拭などで清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じて休んで頂ける時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の一覧で作用副作用を確認できるようにしており、適切な管理に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌、趣味活動、行事、レクなど刺激をもってもらい、さらにできる役割の提供をしている。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で、できる外出行事が減ってしまい、敷地内での外気浴程度となった。個人の希望に沿うまではできなかった。	コロナ禍でも敷地内を散歩するなど、気分転換や外気浴を行っている。プランターで育てた野菜を収穫することも楽しみの一つになっている。人出の少ない時間帯を考慮し、近所の商店に買い物へ出掛けている。「食べたい物」「行きたいところ」の話題を通して、社会生活継続の意欲低下防止に取り組んだり、室内での足上げ運動やイベント再開に向けての準備も行っている。家族との外出は出来るだけ検討し叶えられるようにしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設管理にて、本人所持はないが、一緒に外出した際は使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナ禍、電話の頻度は増えている。季節の手紙作成も支援している。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感も取り入れて工夫に努めている。	玄関、中階段、ホールに季節毎の飾りや様々な写真を掲示している。室内は明るく、温・湿度は職員が管理し、換気も適宜行っている。リビングの日当たりのよい場所にソファが設けられ寛げるようにしている。敷地内にはベンチと椅子を設置するなど、利用者との談話や休憩する場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の席は決まっているが、その他はフリーに居場所を作れるように支援している。廊下にも椅子を準備している。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室担当者が管理し、本人様の状態にあった配慮に努めている。	各室にはエアコン、カーテン、照明、ナースコールが設置されている。電動ベッドは要介護2以上で必要とする利用者には事業所で用意している。畳敷きに布団を使用する人や使い慣れたベッドを持ち込んだり、自費でレンタルする人もいる。利用者は馴染みの家具を持ち込み、写真等が飾られている。整理整頓や衣替え等は希望があれば職員と一緒にやっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーの環境がある。職員の支援方法も自立支援を心掛けている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495500480		
法人名	コスモスケア株式会社		
事業所名	グループホームコスモス八乙女 たんぽぽユニット		
所在地	宮城県仙台市泉区八乙女中央3丁目9-23		
自己評価作成日	令和3年11月26日	評価結果市町村受理日	

#### ※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	2022年1月21日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ユニットの理念 1、思いやりの心  
2、チームの一体化  
3、皆が笑顔で過ごせる場所 を掲げています。  
ワイワイにぎやかにすることを好まれる方が多く、会話交流を大切にしています。反面静かな環境を好まれる場面もあるので、状況に応じた環境作りに努めています。  
食事作りに力を入れ、入居者様の趣向を聞き出しながらのメニュー作りも行なっています。  
行事の際にはお化粧をして頂くなど、リフレッシュできる時間の提供も心掛けています。  
コロナ禍で感染状況も見ながらではありますが、制限付きで居室面会を再開しています。外出も制限付きではありますが、限られた近隣のお店にはお連れできるようになりました。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地下鉄八乙女駅近くの住宅街にある2階建てのホームで、法人本部が隣接している。法人理念の基、たんぽぽユニット:「思いやりの心」「チームの一体化」「皆が笑顔で過ごせる場所」など、ユニット毎に3項目の理念を作成し、ケアプラン作成に活かしている。毎年年度末には振り返りを行っている。また、ケアプランは利用者の尊厳の保持と自立支援を念頭に作成している。運営推進会議は資料を配布し、オンライン会議も併用している。資料配布した委員からは意見や要望・アンケートシートを用意し記入してもらうなど、コロナ禍の中でも情報・意見交換を図り、サービスの質の向上に向け取り組んでいる。週休3日制の導入を検討し、職員が仕事しやすい環境作りを目指している。食事委員会があり、職員が利用者の嗜好を反映し、食事が楽しめるよう彩りに配慮し献立を作成している。法人の管理栄養士から助言を受けている。常勤看護師(兼務)が配置されており、利用者の健康管理を行い医療連携が図られている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果（事業所名 グループホームコスモス八乙女 ）「ユニット名 たんぽぽ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	実践状況は100%ではないが、共有し、実践に繋げている。	法人運営理念の基、年度末に職員で話し合いユニット毎に理念を決めケアに活かしている。事務所内に掲示し、毎朝ミーティング時に唱和している。ユニット理念の「チーム」ケアを推進するために新人職員からの意見も聴き、チームワークを大切にしたい支援を意識している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で、一部近隣と可能な範囲で繋がりを続けている。	例年開催している地域サロンへの参加やボランティアとの交流はコロナ禍でできていないが、町内会の花壇造りで球根植え等を手伝った。次年度も継続して花壇の一角の手入れを手伝う予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍で、実践はできていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で参加率は低いが、ZOOMや別棟を活用して可能な範囲で実施している。	メンバーは地区社協役員、町内会長、地域包括職員、家族で構成されている。資料配布を行いホームの様子を報告し、オンライン会議も活用し実施している。メンバーから意見・要望を聴き取ったり、資料配布者からも意見・要望をアンケート用紙に記入してもらい助言を得ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	相談があった際、連携している。運営推進会議において実施している。	市・区へは必要時に電話等で運営基準などの不明点を問い合わせしたり、相談、事故報告等を行い、情報共有を通して運営支援を受けている。外部評価の報告を県と市へ行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	グレーゾーンについて3月に一回以上の検討会を実施しており、研修も年に2回実施している。	3ヶ月毎に身体拘束廃止委員会を開催している。管理者やリーダーは、職員の何気ない言葉遣いが、「人権と尊厳を意識したケアになっているか」の視点から不適切なケースやグレーゾーンにも留意して、職員に助言したり振返りを行っている。安全対策として家族の了承を得て離床センサーを使用している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修の機会を設けるとともに、日々のミーティングでも気になる点があれば議題に出せる関係性がある。	内・外部研修へ参加している。法的な知識に裏付けられたサービスが行えるように目指している。言葉遣いやケアに関する疑問点、不安なことは、管理者やリーダーへいつでも相談できる環境作りに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	十分な研修は実施できておらず、理解度は低い。 職員が外部研修に参加しているが、伝達研修までできていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	行なっている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しているが活用されることはなかった。面会、電話、届け物、担当者会議等で随時施設から確認し、反映に努めている。	家族からの要望は、介護計画作成担当職員との定期面談時や、通院の付き添い時など様々な場面で聞いている。洗濯物の管理について要望等があり、職員で検討し改善に繋がった。意見箱も利用しやすい場所に設置するなど、配慮し取組んでいる。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティングや定例会議、定期面談や随時の面談で機会を設け、反映に努めている。	職員との個別面談や職員会議時に要望や意見を聞いている。宮城県が実施している週休3日制のモデル事業を導入するにあたり、職員から意見や希望を聴き、選択制で実施している。物品購入についてや利用者の安全に配慮したリビング・食堂の配置換えなど、出された意見を反映し行った。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度があり、毎年整備がされている。定期と随時の面談の実施がある。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に毎月2～3名程度参加している。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	社内での同等の等級での研修会の際には、交流もできている。	職員は法人全体の階層別研修や、各委員会の研修に参加しケアに活かしている。業種、年齢なども異なる職員と意見交換や情報交流を通じて自己研鑽に繋げている。これらの交流は自己の振り返りの機会にもなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用開始時は特に関わりの時間を多く持って関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様のご意見を大切にし、可能な範囲で要望に応じ、関係作りに務めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	望むことを引き出す技術、説明、必要とされる関わりに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する側の立ち位置になりがちであり、互いに注意し合う関係性を大切にしている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	話を聞く場面が多めであり、的確な状況報告や、アドバイスにやや課題がある。絆を大切にしたい関係性の構築には日々努めている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で、その時々への対応に努めている。面会禁止時でも、WEB面会を推奨し、希望するご家族に提供してきた。	オンラインを活用し家族と面会を行ったり、絵手紙や電話で交流を支援し、コロナ禍でも関係が途切れないよう支援している。墓参りや愛犬を看取るため自宅へ戻る外出支援など、可能な限り要望に応えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関係性に配慮し、職員が仲介する等の支援を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後一年以上経過後にもあいさつに来てくださった方がいるなど、その際は必要なフォローに努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	プラン作成やカンファの際に加え、随時ご意向を聞きながら、情報共有に努めている。	入居時に利用者や家族から意向や生活歴等を聞き、情報シートに記入し集約している。意向を表すのが難しい利用者からは、自ら選択できるように質問する等、声のかけ方を工夫している。日常生活の中で見せる利用者の表情や様子からも思いを把握している。得た情報は職員間で共有し、対応について検討しケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前だけではなく、入所後も随時で情報を確認させて頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のミーティングをとおして、日々の情報共有に努めている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	コロナ禍で集まって話すのは難しいが、日々のミーティングやカンファレンスを通して職員間でプランを共有している。毎月のカンファレンス内容も取り入れてプランを作成している。	全利用者の状態を毎月の会議で情報共有しケア方法についてなど検討を行い、介護計画を評価している。利用者を主体として考え、管理者・看護師・介護職で連携し、多方面から利用者の自立が促せるよう意識し、介護計画作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報共有を意識した記録に加え、話し合いの時間を設けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同法人他事業所の理学療法士の活用や、マッサージ事業所、医療デイケアも活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問理美容の活用や、本人の希望を取り入れた食品の購入等しながら支援している。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科、歯科の訪問診療の希望を伺い、希望者を仲介している。	利用者が希望するかかりつけ医を受診している。利用者の状態により往診医をかかりつけ医に提案することもある。通院は基本的に家族付き添いとしており、受診時には看護師が作成した健康状態をまとめた文書を、家族に提供し、医療機関へ利用者の状況を伝えている。状況によっては職員が同行することもある。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々相談事項が共有され、適切な介護と看護の連携に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時には紙面も活用して情報共有に努めている。退院時はカンファレンスの開催を依頼している。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りケアの前段階では、担当者会議を開催し、状態の共有と家族意向の確認を行っている。本人意向についても共有している。	入居時に「看取りに関する指針」を説明している。本人、家族の意思確認は段階を踏んで行い、看取り期は、家族、医師と相談して介護計画を作成し同意を得てケアに努めている。看取り期は経験のある職員が中心となり、事前ミーティングや緊急カンファレンスを開催し情報共有や検討等を行いチームで連携し取り組んでいる。常勤看護師が配置されており、看取り実績もある。医師の指示で家族が訪問看護事業所と契約することもある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練とまではいかないが、想定できる事故や体調不良への対応については、都度指示がでて備えている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練はしているが、非常災害時はその時の緊張感のなかでしっかりとできるか、不安はある。災害時の近隣との協力体制は十分ではない。	年2回、火災訓練を実施している。地震・水害の通報連絡訓練を行い、通報や機器の取り扱いを周知している。非常食・備品等は管理者が管理している。感染症対策ではチェック表・プラスチック手袋、消毒液等を準備し、研修も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	場面によっては不十分になってしまうこともあり、チームでの振り返りを大切にしている。	部屋に入る際は、ノックや声掛けで確認してから入室している。排泄介助時等にも、利用者の尊厳を守り、羞恥心、嫌な思いをしないよう言葉遣いにも配慮し支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人の意思決定を大切にしたコミュニケーションに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のペースや生活リズムを優先することが望ましいが、リスク回避のために職員側の都合に合わせて頂くことがある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自身で選べる方には服を選んで頂いている。難しい方には職員が支援している。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理～片付けまで、その時のご気分も確認しながらできる役割を持っていただいている。	食事委員会を設置し、担当職員が法人の管理栄養士に相談や助言を得て献立を作成している。利用者の嗜好を考慮し、視覚からも食事が楽しめるような献立作りを行い、嫌いなメニューは代替え食で提供している。行事食は、利用者を中心に主体的に参加し楽しめるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食器や食事形態を工夫する等している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の声掛けや見守り、介助を行なっている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	状態に応じて自立支援も取り入れながら支援している。	職員は排泄チェック表や申し送りシートで排泄状態を把握している。介護計画において利用者自身で行えることを尊重して、排泄の自立を支援している。便秘予防には腹部を温めたり、水分摂取量の確認など、一人ひとりに合わせ取組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品取り入れ、Drにも相談しながら支援している。こんにやくゼリーや食物繊維サプリを試すこともあった。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的な入浴パターンはあるが、その時の気分に応じた対応も行っている。	基本3日ごと、10時から16時までに入浴支援を行い、その他にも希望があれば、可能な限り対応できるよう努めている。脱衣所や浴室の保温に配慮し、行事湯や入り口には温泉マークを用意するなど、気分良く楽しい入浴ができるよう工夫している。利用者は、職員との対話も楽しみにしながら入浴している。体調に合わせて、部分浴や清拭などで清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じて休んで頂ける時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の一覧で作用副作用を確認できるようにしており、適切な管理に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌、趣味活動、行事、レクなど刺激をもらい、さらにできる役割の提供をしている。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で敷地内での外気浴程度の支援から、現在は近隣一部のお店と一緒にいくこともできるようになった。飼い犬が老犬になり、看取り前に会いに行くこともあった。	コロナ禍でも敷地内を散歩するなど、気分転換や外気浴を行っている。プランターで育てた野菜を収穫することも楽しみの一つになっている。人出の少ない時間帯を考慮し、近所の商店に買い物へ出掛けている。「食べたい物」「行きたいところ」の話題を通して、社会生活継続の意欲低下防止に取り組んだり、室内での足上げ運動やイベント再開に向けての準備も行っている。家族との外出は出来るだけ検討し叶えられるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は施設管理だが、いくらかでも持っている と落ち着く方には、家族了承の上で居室管理して頂いたこともあった。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナ禍、電話の頻度は増えている。希望時には電話している。季節の手紙作りも随時支援している。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	寒さ、光、音には特に配慮し、飾りつけも一緒にいながらの空間作りに努めている。	玄関、中階段、ホールに季節毎の飾りや様々な写真を掲示している。室内は明るく、温・湿度は職員が管理し、換気も適宜行っている。リビングの日当たりのよい場所にソファが設けられ寛げるようにしている。敷地内にはベンチと椅子を設置するなど、利用者との談話や休憩する場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個別の関係性を考慮しながら、随時で席替えもしている。廊下にはソファや椅子を置き、活用頂いている。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはなじみの家具や道具、写真等を設置している。	各室にはエアコン、カーテン、照明、ナースコールが設置されている。電動ベッドは要介護2以上で必要とする利用者には事業所で用意している。畳敷きに布団を使用する人や使い慣れたベッドを持ち込んだり、自費でレンタルする人もいる。利用者は馴染みの家具を持ち込み、写真等が飾られている。整理整頓や衣替え等は希望があれば職員と一緒にやっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自走での車いす操作に支障がないようにと、導線も検討しながら工夫に努めている。		